

# 東京iCDCリスクコミチームによる 都内在住外国人アンケート調査（2023年6月実施）

2023. 7. 13

資料4

## ■ 調査方法：インターネット調査

## ■ 調査対象：東京都に住所を有する20代から70代までの在住外国人

## ■ 調査票の対応言語（14言語）：英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、ベトナム語、フィリピン語、ネパール語

ベンガル語、ヒンディー語、タイ語、ビルマ語、インドネシア語、フランス語、やさしい日本語（※）

※やさしい日本語とは、外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のこと。

1995年の阪神・淡路大震災の際、多くの外国人が被害を受けたことから、外国人にできるだけ早く正しい情報を伝えられるように考え出され、東日本大震災において意義が再確認された。

## ■ 有効回収票：2,000サンプル

## ■ サンプルング方法：都内在住外国人の国籍別の人口構成比率に合わせた割当抽出（割当は下表参照）

国籍	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ネパール	米国	台湾	インド	ミャンマー	タイ	インドネシア	フランス	イギリス	バングラデシュ	その他
回収数	2,000	793	295	127	116	97	67	67	55	48	28	25	24	23	18	217
構成比	100.0%	39.7%	14.8%	6.4%	5.8%	4.9%	3.4%	3.4%	2.8%	2.4%	1.4%	1.3%	1.2%	1.2%	0.9%	10.9%

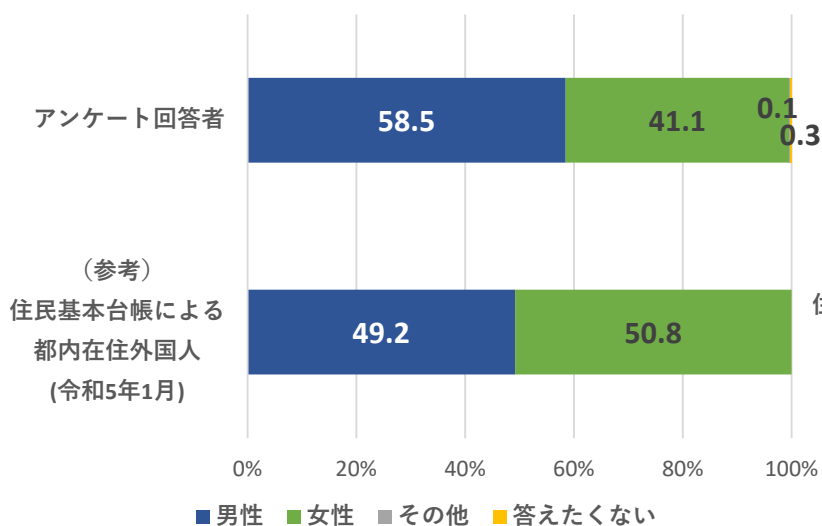
## ■ 調査期間：2023年6月1日（木）～6月21日（水）……3週間

- 調査項目：
  - 新型コロナの基本的な感染防止対策
  - 新型コロナに関する情報源、情報収集に利用する言語、困りごと
  - 東京都の施策についての評価 など

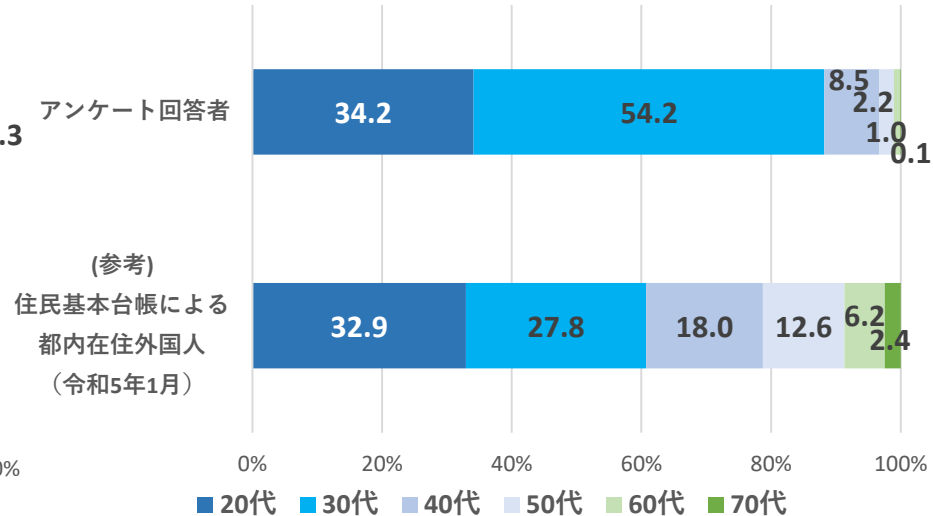
# 有効回収票についての基本属性

有効回収票 n=2,000

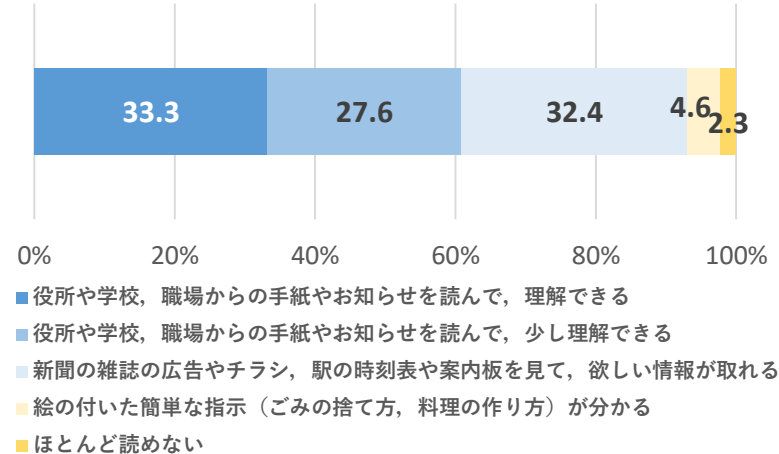
## 回答者の性別



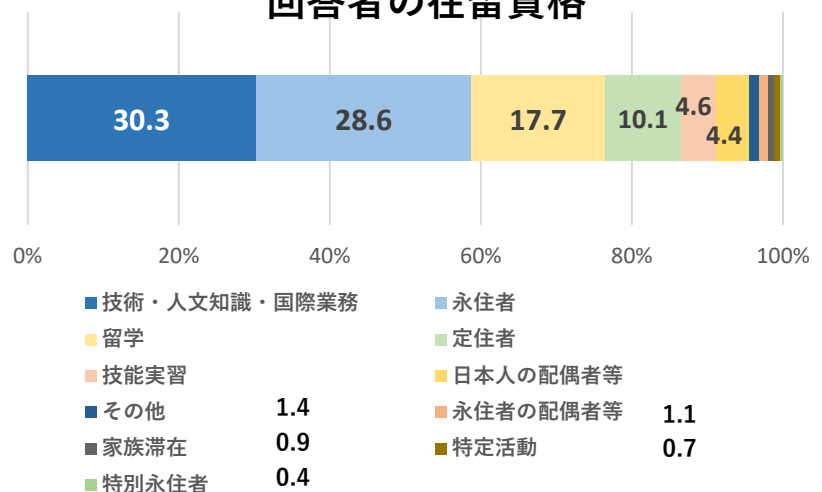
## 回答者の年代



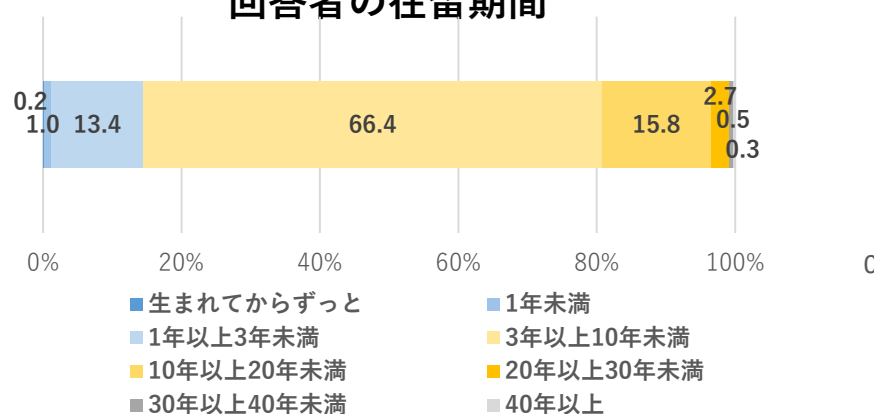
## 回答者の日本語能力（読む）



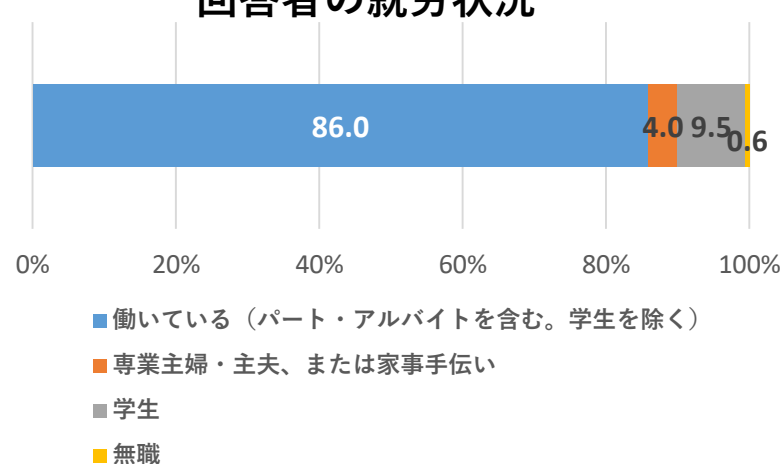
## 回答者の在留資格



## 回答者の在留期間



## 回答者の就労状況



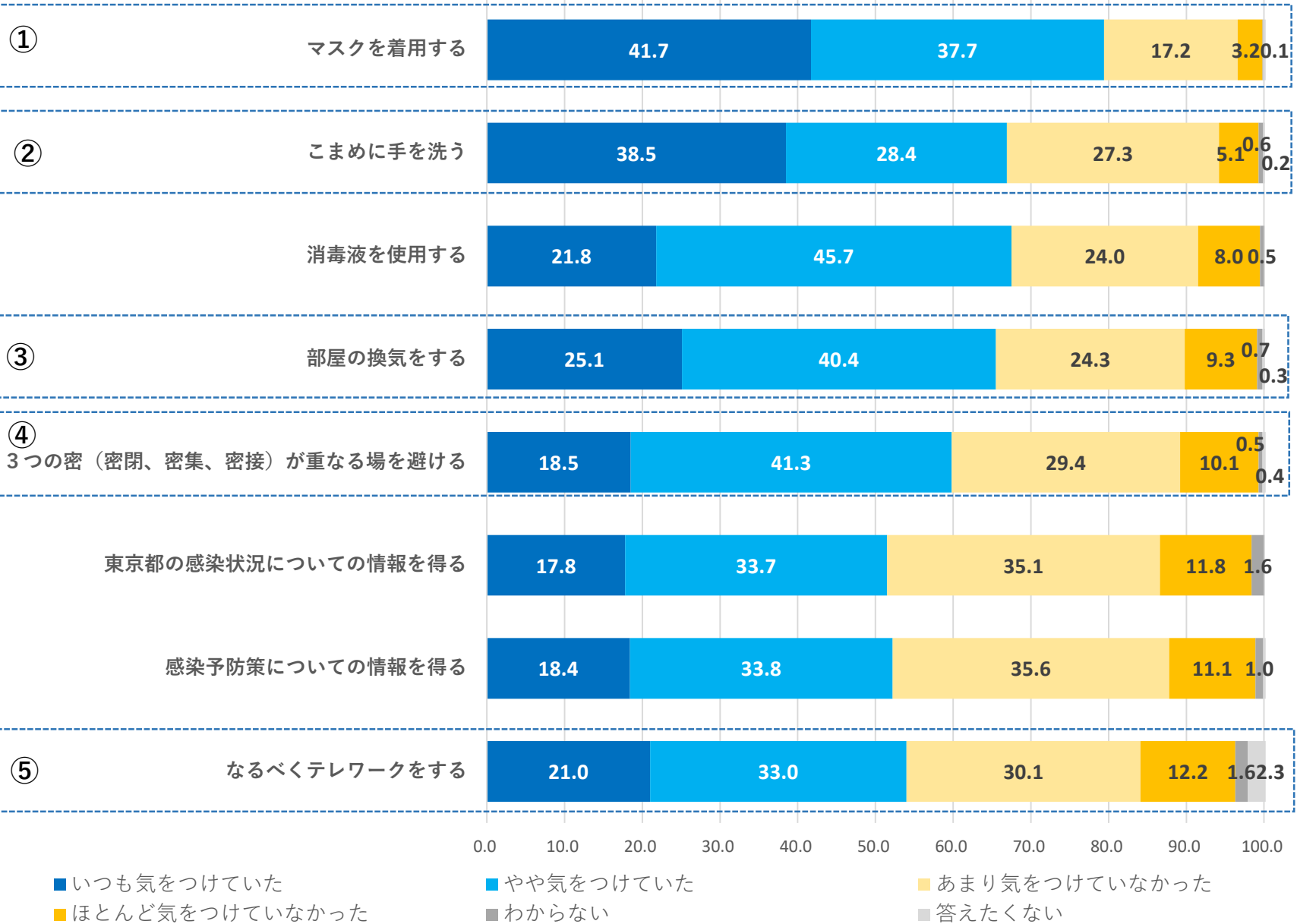
※本調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計をしても必ずしも100とはならない。

※本調査結果は、アンケートに対して得られた回答をそのまま集計・掲載したものであり、一部の結果では回答数が限られることや性別・年代・在留資格は、実際の在住外国人の構成比率と異なることには留意が必要である。

# 新型コロナの対策について、今年2月時点のあなたにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(n=2,000)

(%)



今年2月時点における新型コロナウイルスの感染対策については、いずれの調査項目においても回答者の半数以上が感染防止対策に「いつも/やや気をつけていた」と回答している。

① 「マスクを着用する」については、「いつも/やや気をつけていた」の回答割合は約80%。

② 「こまめに手を洗う」については、「いつも/やや気をつけていた」の回答割合は約65%。

③ 「部屋の換気をする」については、「いつも/やや気をつけていた」の回答割合は約65%。

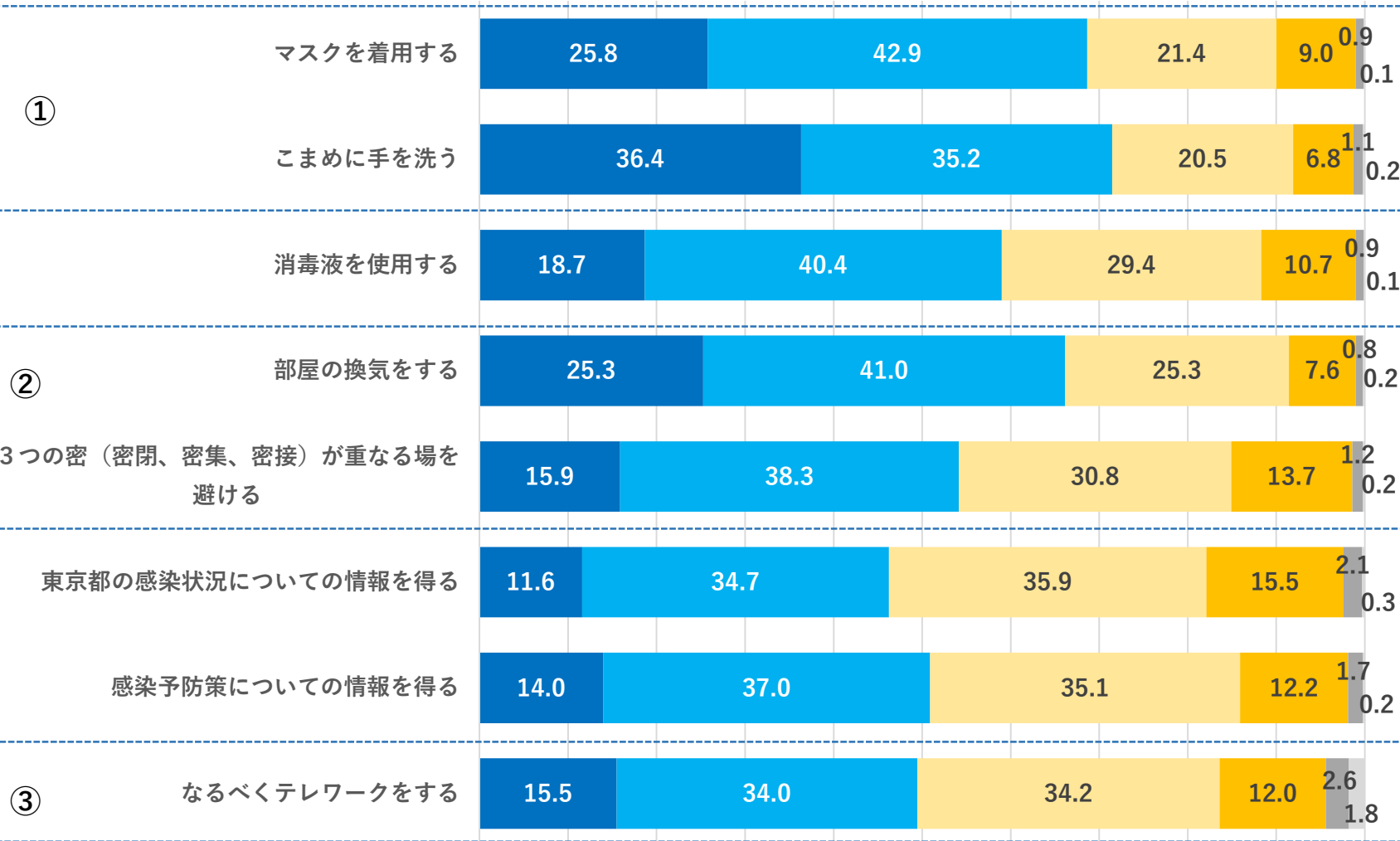
④ 「3つの密が重なる場を避ける」については、「いつも/やや気をつけていた」の回答割合は約60%。

⑤ 「なるべくテレワークをする」については、「いつも/やや気をつけていた」の回答割合は約55%。

# 新型コロナの対策について、今後も続けていくつものものを教えてください。

(n=2,000)

(%)



新型コロナの対策について、回答者の**約半数以上**が、「いつも/やや気をつける」と回答しており、**今後も基本的な感染防止対策を続ける意向であることが伺える。**

① 「マスクを着用する」、「こまめに手を洗う」については、今後も「いつも/やや気をつける」の回答割合は**約70%**。

② 「部屋の換気をする」、「3つの密を避ける」については、今後も「いつも/やや気をつける」の回答割合は、それぞれ**約65%、約55%**。

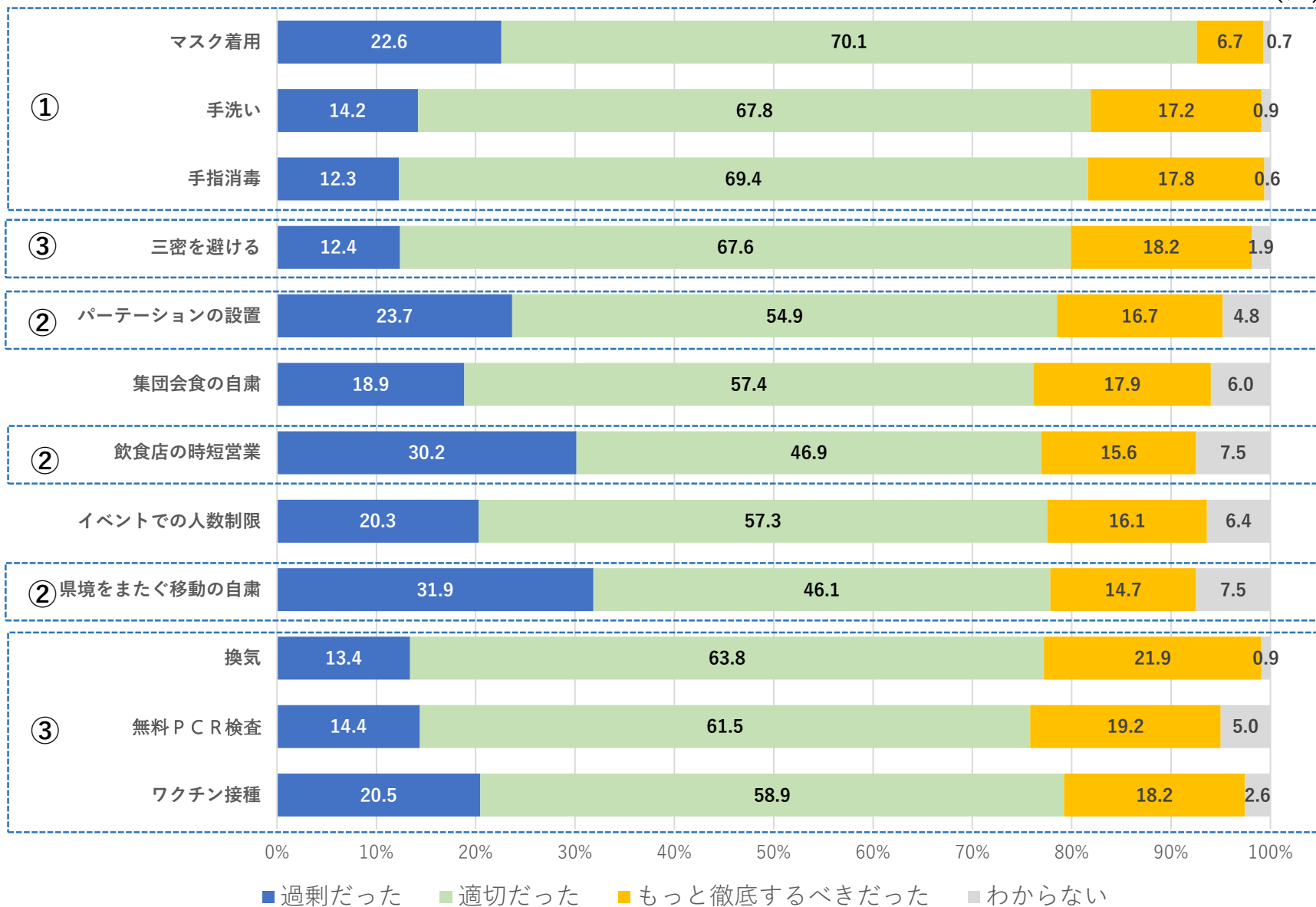
③ 「なるべくテレワークをする」については、今後も「いつも/やや気をつける」の回答割合は**約50%**。

■ いつも気をつける      ■ やや気をつける      ■ あまり気をつけない  
■ ほとんど気をつけない      ■ わからない      ■ 答えたくない

# これまで行われてきた新型コロナの感染予防対策について、あなたの考えにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(n=2,000)

(%)



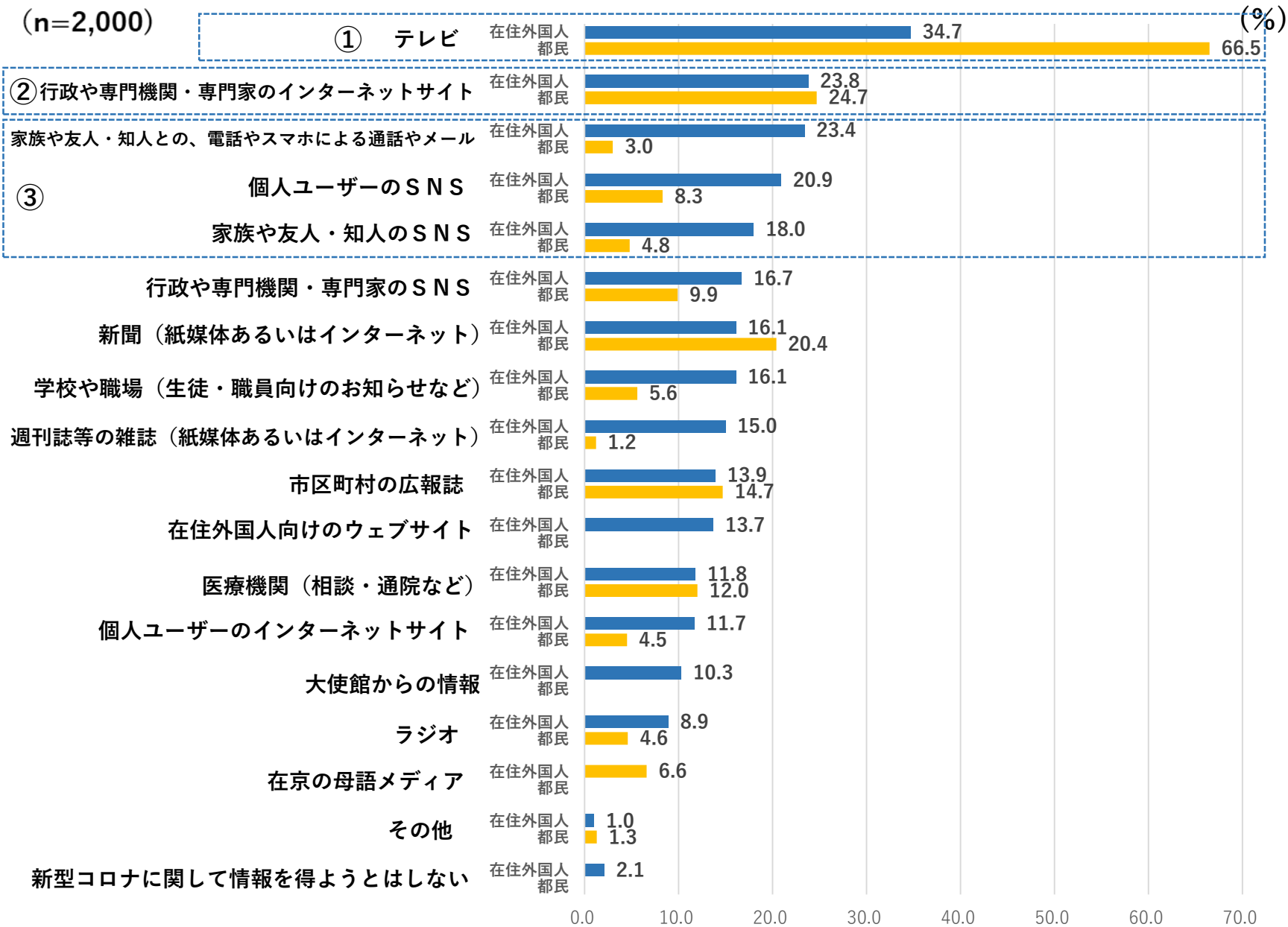
これまでの新型コロナの感染予防対策について、全ての調査項目において、「適切だった」と回答している割合が、最も高くなっている。

① 「適切だった」と回答した割合は、「マスク着用」、「手指消毒」、「手洗い」の順で高く、それぞれ約70%。

② 「過剰だった」と回答した割合は、「飲食店の時短営業」、「県境をまたぐ移動の自粛」が30%を超えており、続いて「パーティションの設置」が約25%。

③ 「もっと徹底するべきだった」と回答した割合は、「換気」、「無料PCR検査」、「三密を避ける」、「ワクチン接種」の順で高く、それぞれ約20%。

# 新型コロナに関して情報を得ようとするとき、どの情報源を利用しますか。よく利用するものを3つまで選んで下さい。



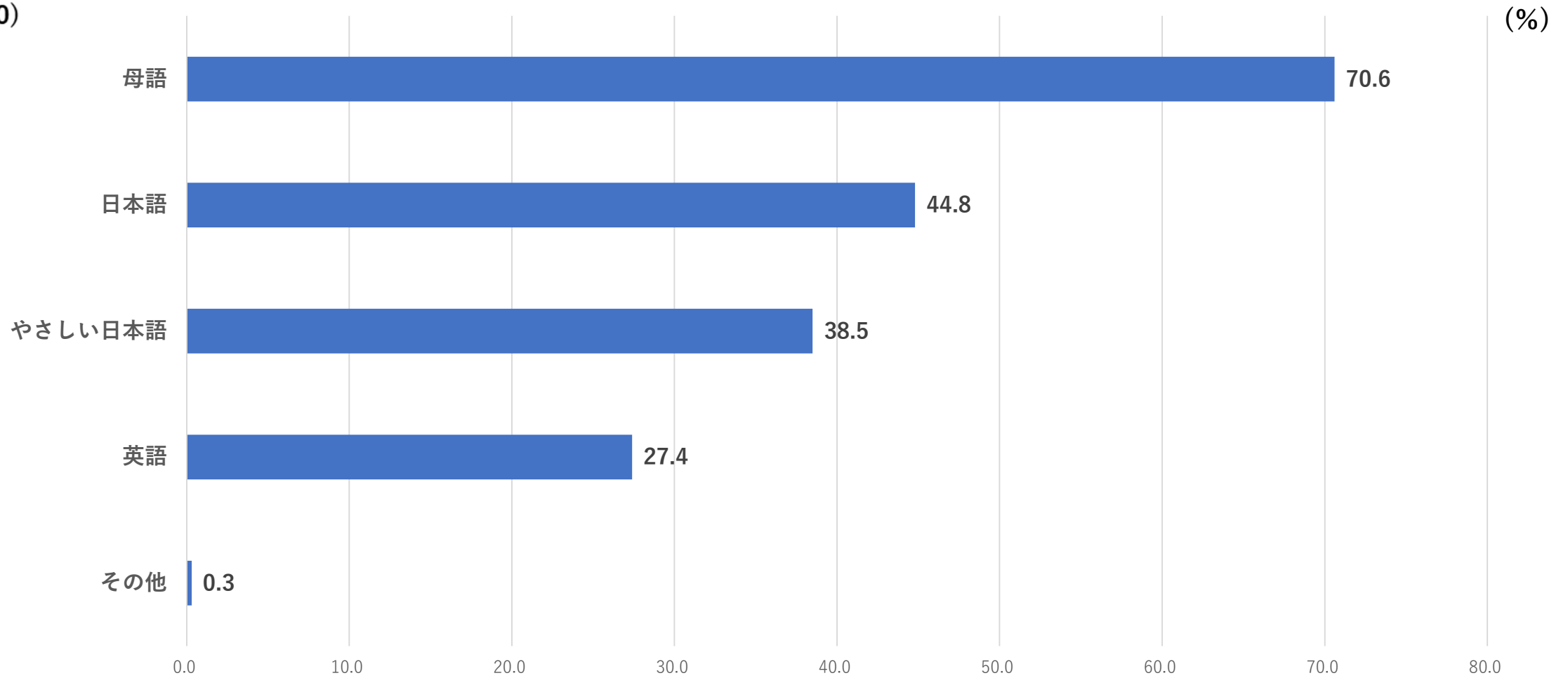
新型コロナに関する情報源について、今回の調査結果と本年2月に実施した都民アンケートの調査結果を比較すると、**利用する情報媒体の傾向が一部異なっている。**

- ① 「テレビ」と回答した割合が**最も高く、約35%**。ただし、都民の回答割合の**約65%**と比較すると**低く**なっている。
- ② 「行政や専門機関・専門家のインターネットサイト」の回答割合は、**約25%**となっており、**都民の回答割合と同程度**。
- ③ 「家族や友人・知人との、電話やスマホによる通話やメール」、「個人ユーザーのSNS」、「家族や友人・知人のSNS」の回答割合が**約20%**となっており、この項目は**都民の回答割合よりも高くな**っている。

※表中の「都民」の数値は、2023年2月実施の都民アンケート調査結果の値

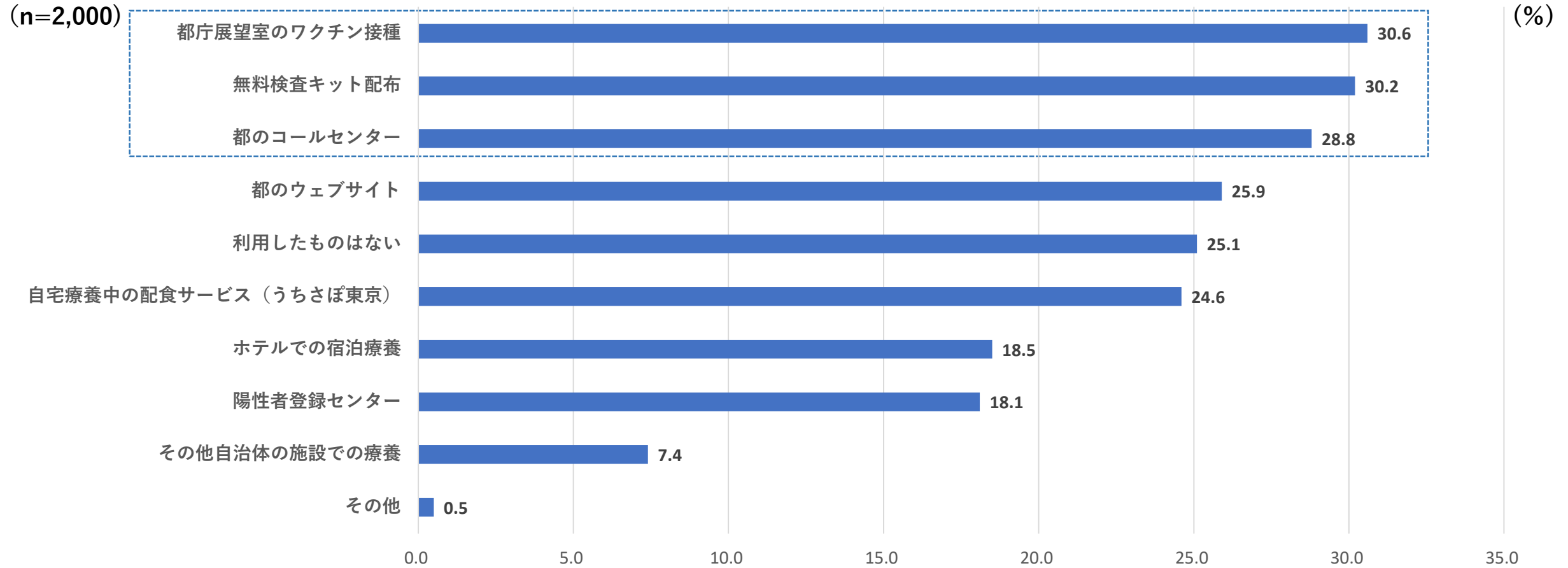
# あなたが日本での新型コロナに関する情報収集の際に使う言語を教えてください。(複数回答)

(n=2,000)



◆ 情報収集の際に使う言語として、「母語」の回答割合は約70%、「日本語」の回答割合は約45%、「やさしい日本語」の割合は約40%、「英語」の回答割合は約30%となっている。

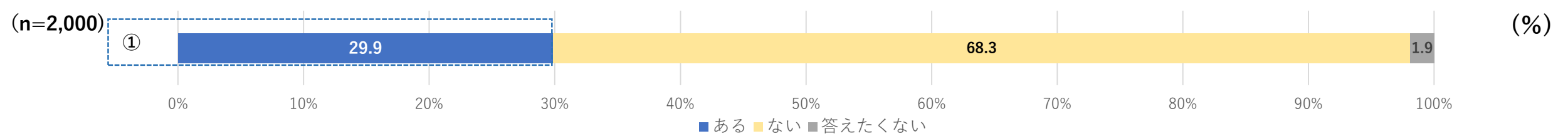
あなたは、あなたやあなたの家族・友人に関連して、都の新型コロナの相談窓口や支援制度を利用したことがありますか。外国語対応の仕組みを使って、利用したことがあるものを教えてください。（複数回答）



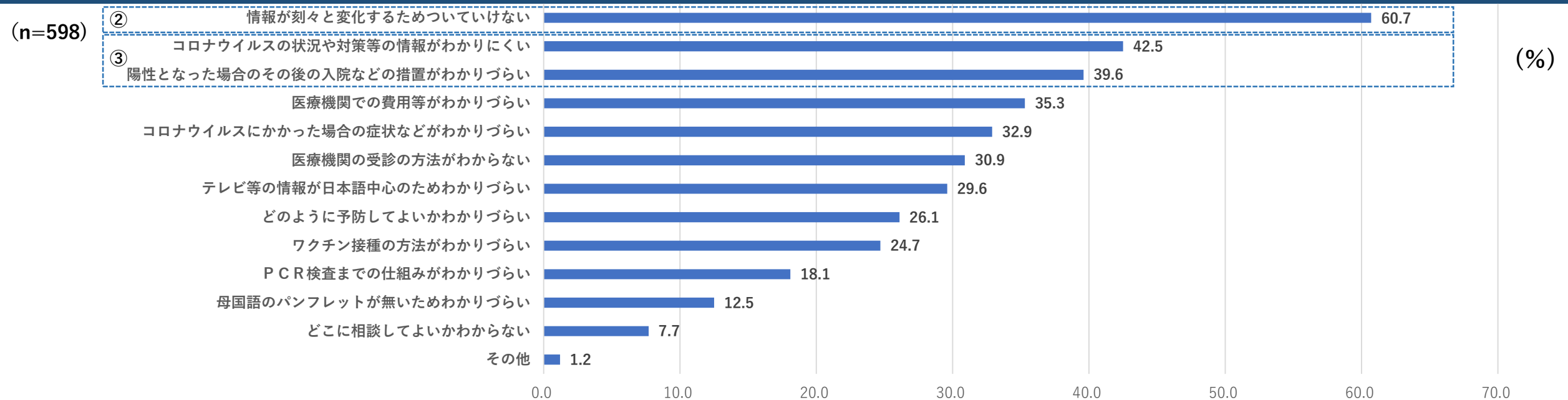
◆ 自身や家族・友人に関連して、外国語対応の仕組みを使って、都の新型コロナの相談窓口や支援制度を利用した経験については、「都庁展望室のワクチン接種」、「無料検査キット配布」、「都のコールセンター」の回答割合は約30%と高くなっている。



これまで、あなたが新型コロナについての情報を入手するときに困ったことがありますか。

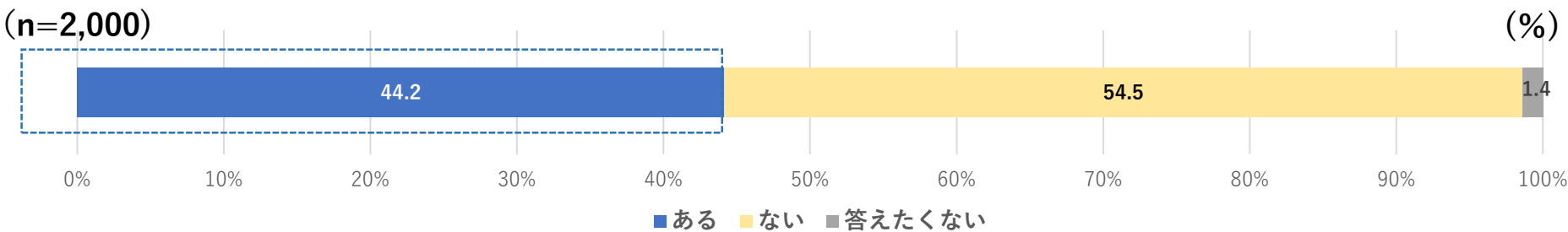


前問で「新型コロナについての情報を入手するときに困ったことがある」とお答えの方にお尋ねします。  
困ったことについて、あてはまるものを全て選択してください。



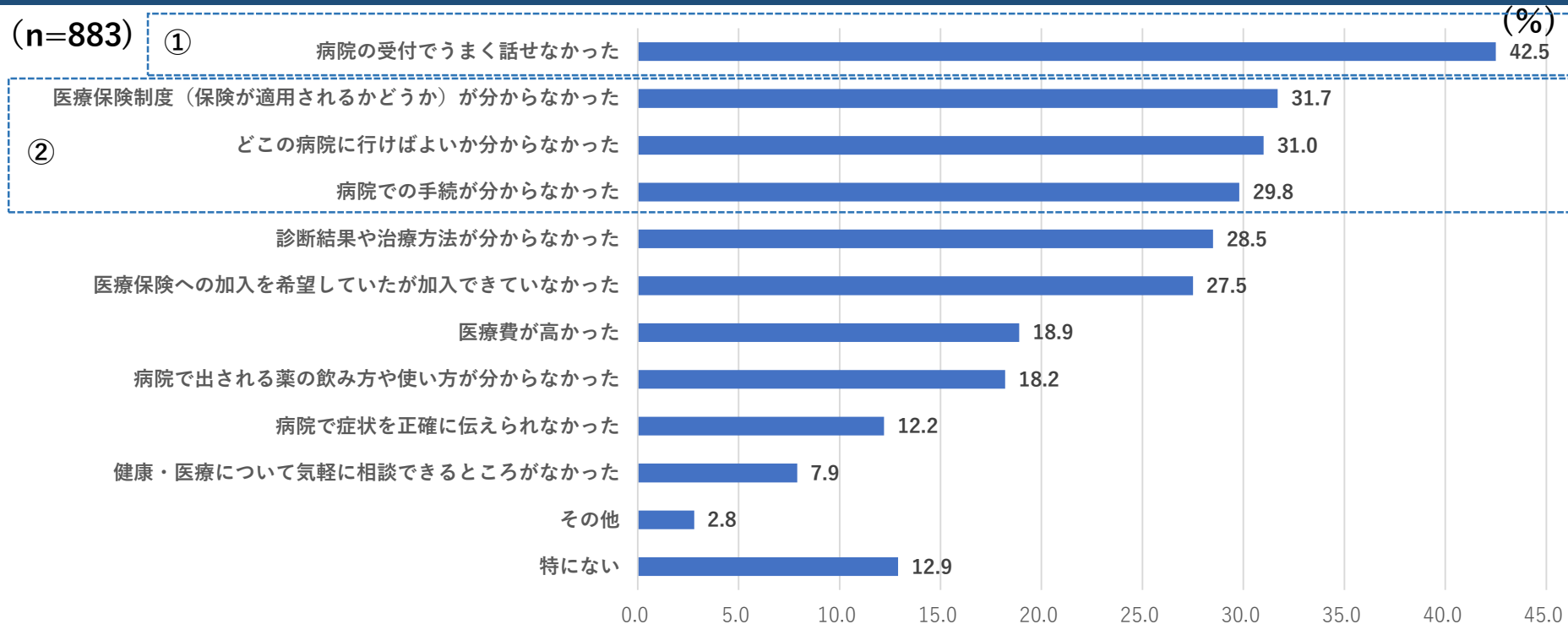
- ① 新型コロナについての情報の入手に際し、約30%の方が「困ったことがある」と回答している。
- ② 困ったこととして、「情報が刻々と変化するためついていけない」の回答割合が約60%と最も高くなっている。
- ③ 続いて、「コロナウイルスの状況や対策等の情報がわかりにくい」、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」の回答割合が約40%と続いている。

# あなたがコロナに感染した疑いがあり、病院で検査・診察・治療を受ける必要が生じたことはありませんか。



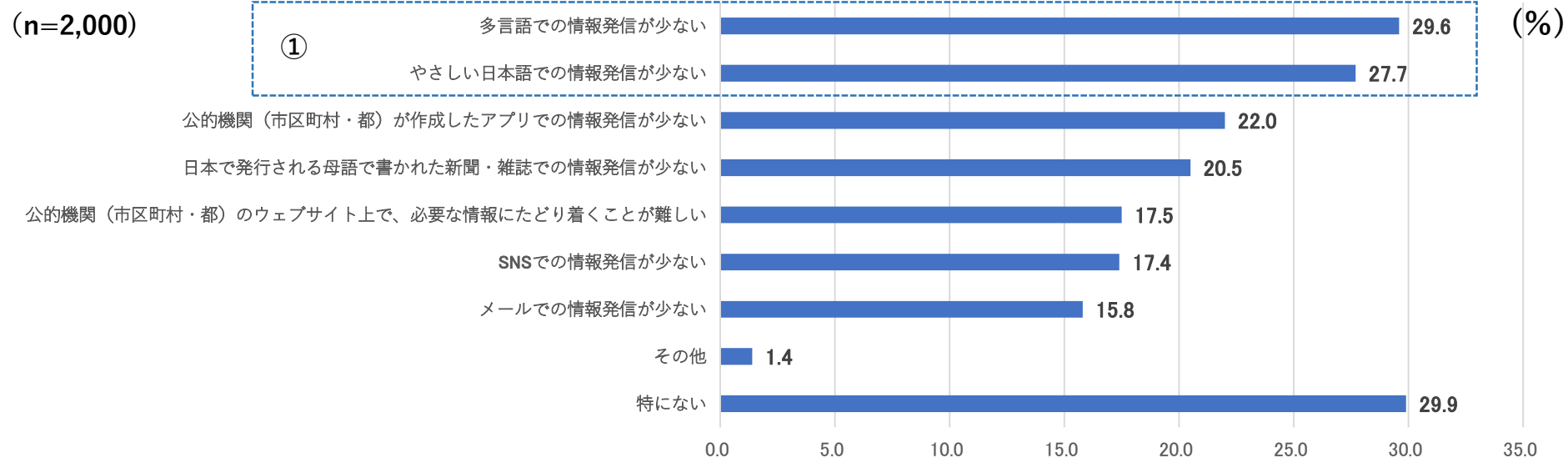
◆ コロナに感染した疑いがあり、病院で検査・診察・治療を受ける必要が生じた人の割合は約45%。

## 前問で「コロナに感染した疑いがあり、病院で検査・診察・治療を受ける必要が生じたことがある」とお答えの方にお伺いします。そのときに困ったことを教えてください。（複数回答）



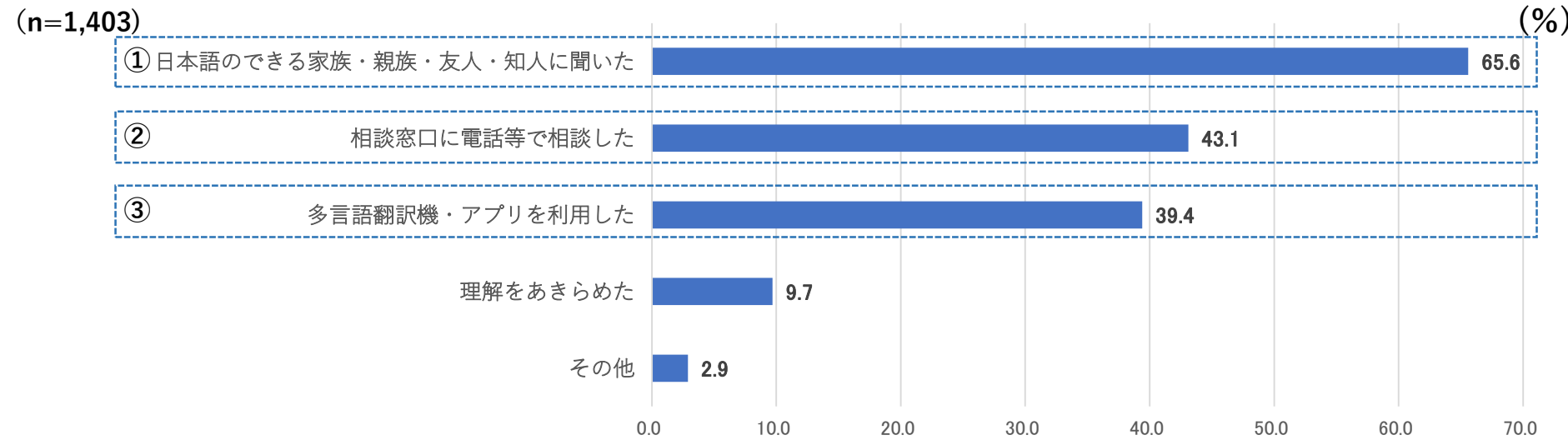
① 病院での検査・診察・治療の際に困ったこととして、「病院の受付でうまく話せなかった」の回答割合は約40%。  
 ② 「医療保険制度（保険が適用されるかどうか）が分からなかった」、「どの病院に行けばよいか分からなかった」、「病院での手順が分からなかった」の回答割合は約30%。

あなたが、普段、公的機関（市区町村・都）が発信する情報入手するときに困っていることを教えてください。（複数回答）



① 公的機関（市区町村・都）が発信する情報の入手についての困りごとは、「多言語での情報発信が少ない」、「やさしい日本語での情報発信が少ない」の回答割合が高く、それぞれ約30%。

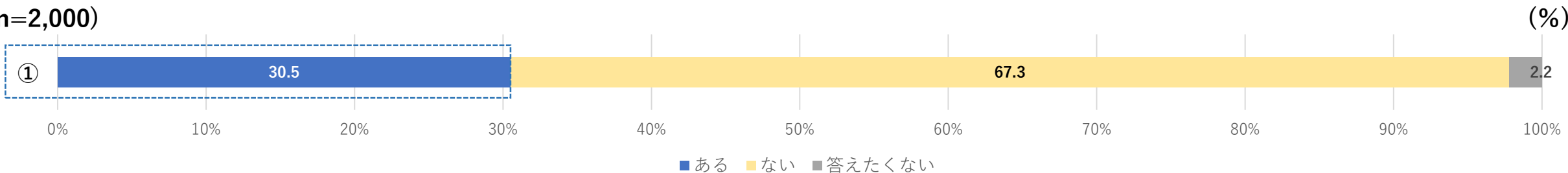
前問でお答えいただいた「情報入手するときに困っていること」についてお尋ねします。情報入手の困りごとについて、どのように対応しましたか。（複数回答）



① 困難だった際の対応として、「日本語のできる家族・親族・友人・知人に聞いた」の回答割合は約65%。  
 ② 「相談窓口で電話等で相談した」の回答割合は約45%。  
 ③ 「多言語翻訳機・アプリを利用した」の回答割合は約40%。

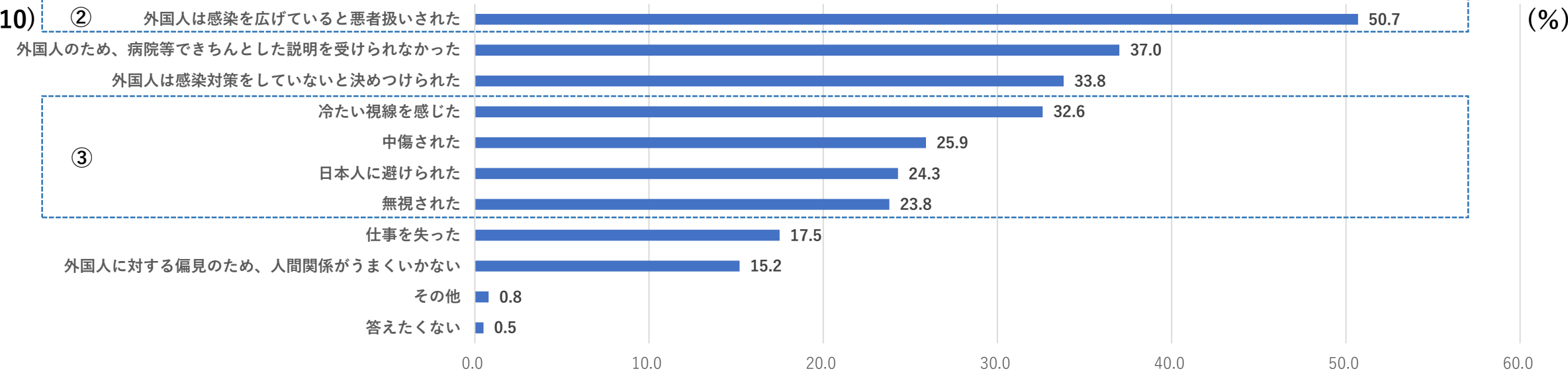
# 新型コロナウイルス感染症に関連して、あなたは他人から偏見や差別を受けた経験はありますか。

(n=2,000)



前問で「ある」と回答された方にお伺いします。新型コロナに関連して、あなたが受けた差別は具体的にどのようなものでしたか。（複数回答）

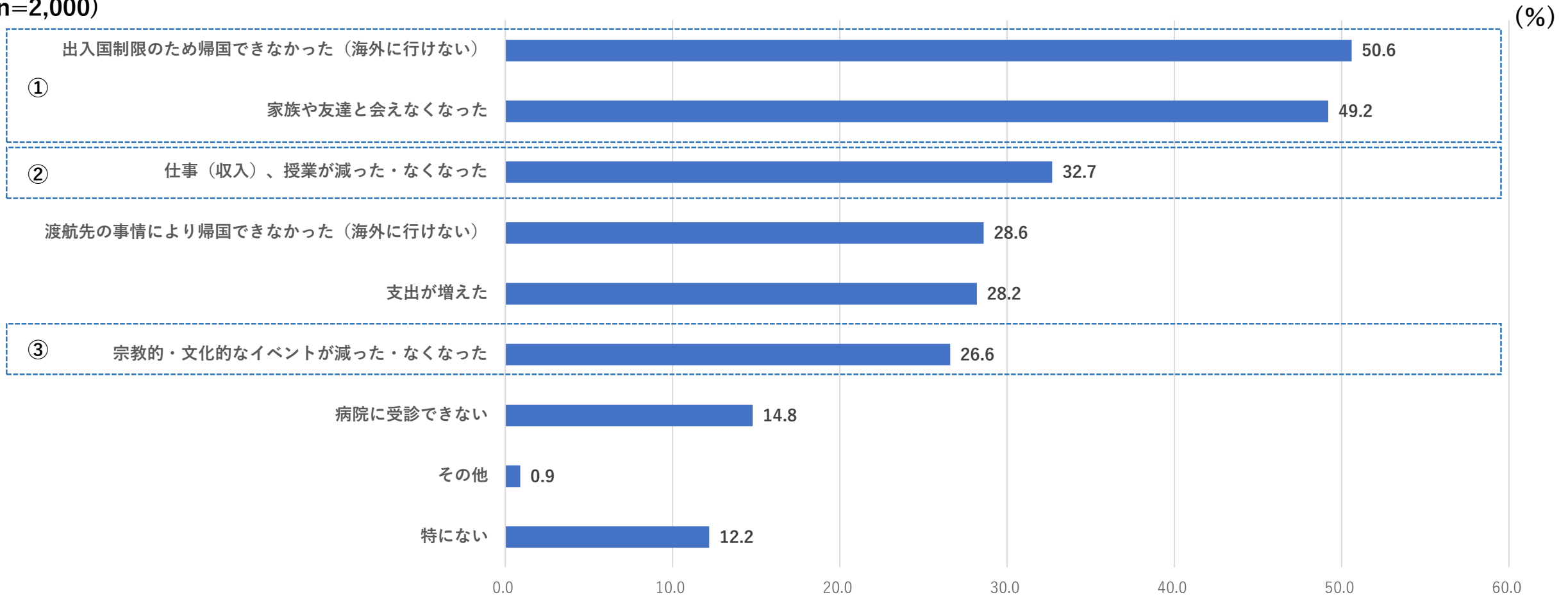
(n=610)



- ① 新型コロナに関連して約30%が他人から偏見や差別を受けた経験があると回答。この数値は、本年2月の都民を対象に実施したアンケートの同じ設問の結果（4.2%）より大きい。
- ② 「外国人は感染を広げていると悪者扱いされた」の回答割合は約50%。
- ③ 「冷たい視線を感じた」の回答割合は約30%。「中傷された」、「日本人に避けられた」、「無視された」の回答割合は約25%。

# 新型コロナウイルス感染症等による生活面の影響について、当てはまるものを選んでください。（複数回答）

(n=2,000)

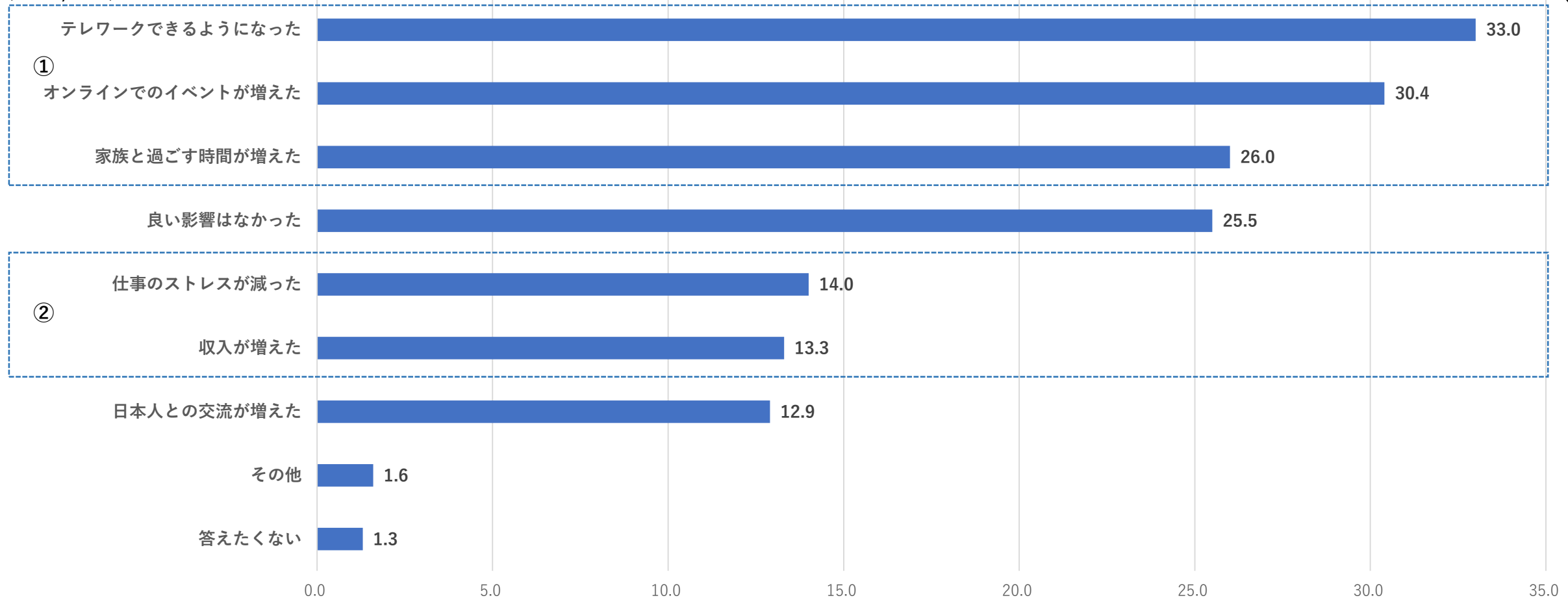


- ① 新型コロナウイルス感染症等による生活面の影響について、「出入国制限のため帰国できなかった（海外に行けない）」、「家族や友達と会えなくなった」の回答割合は約50%。
- ② 「仕事（収入）、授業が減った・なくなった」の回答割合は約30%。
- ③ 「宗教的・文化的なイベントが減った・なくなった」の回答割合は約25%。

# 新型コロナウイルス感染症が流行したこの3年間で、あなたにとってよい影響がありましたか。 当てはまるものを全て選んでください。

(n=2,000)

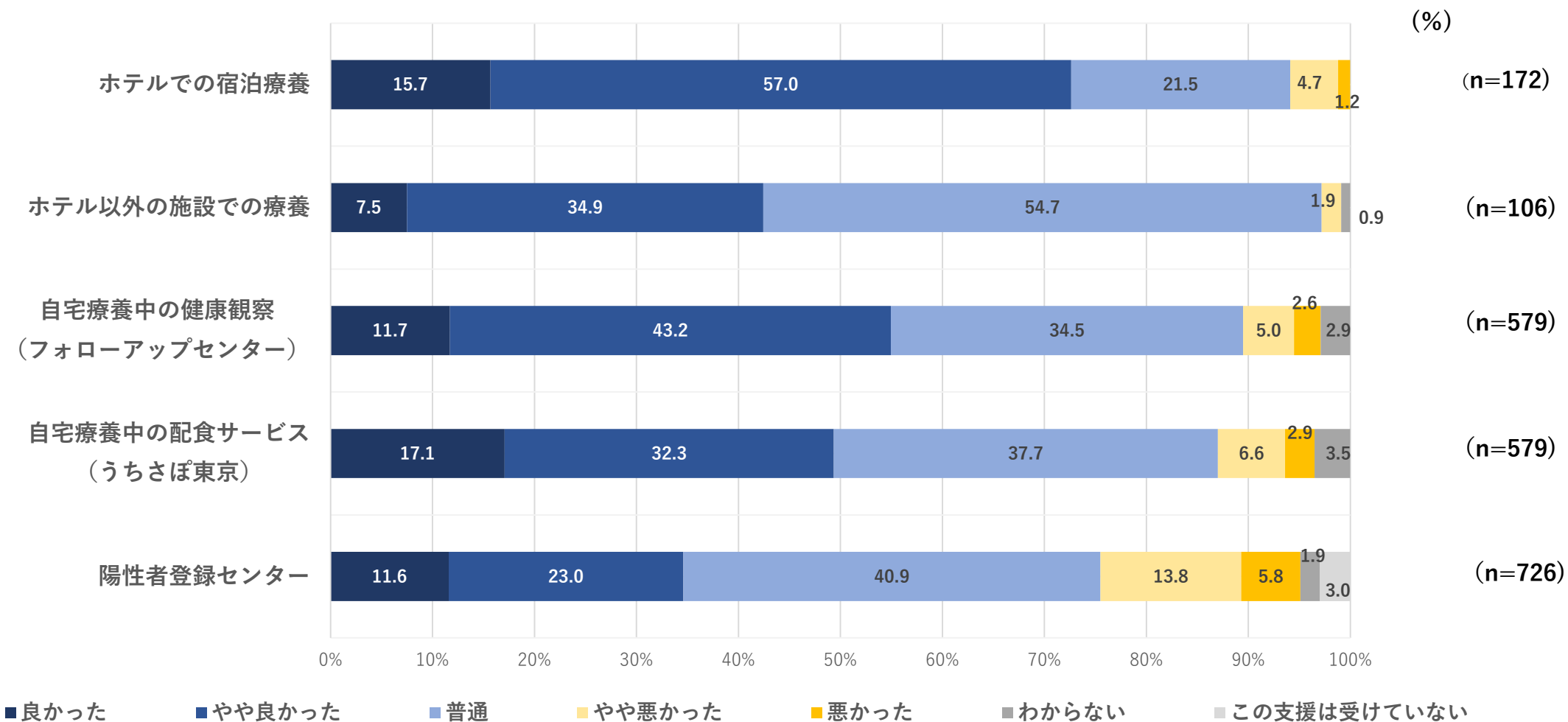
(%)



① 新型コロナウイルス感染症が流行した3年間における良かった影響として、「テレワークできるようになった」、「オンラインでのイベントが増えた」、「家族と過ごす時間が増えた」の回答割合は約30%。

② 「仕事のストレスが減った」、「収入が増えた」の回答割合は約15%。

コロナ罹患時に行政の支援を受けた方にお伺いします。支援についての評価を教えてください。

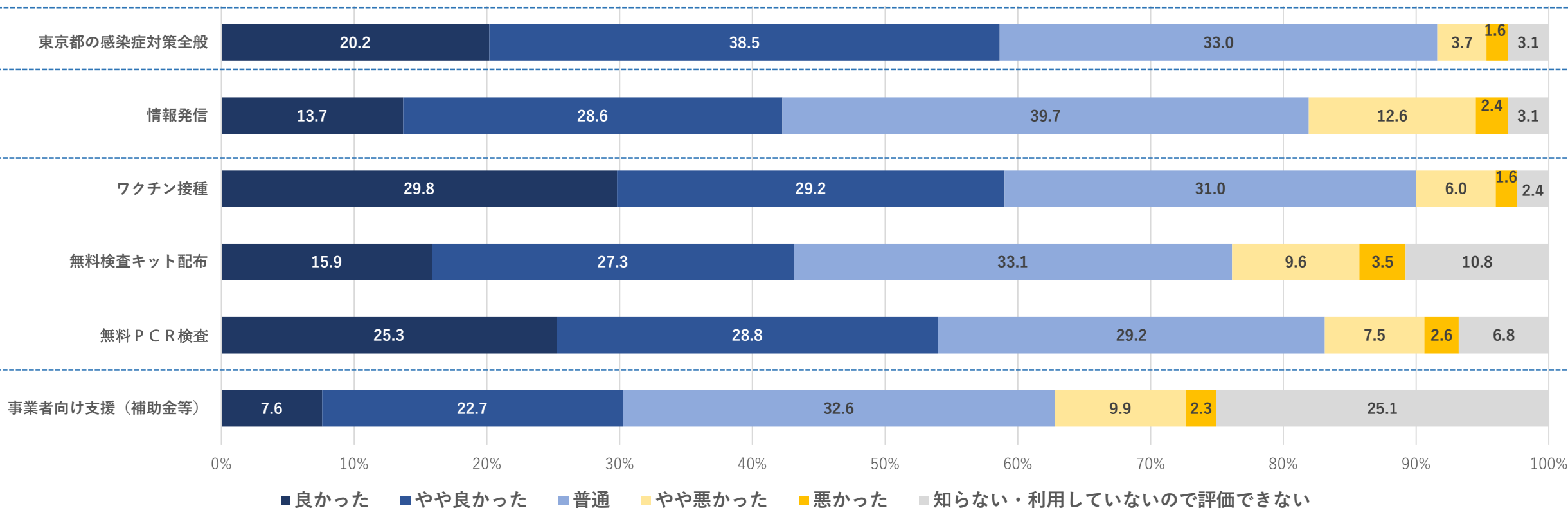


◆ コロナ罹患時の行政支援の評価は「ホテルでの宿泊療養」について約70%が「良かった/やや良かった」と回答。また、「自宅療養中の健康観察」は約55%、「自宅療養中の配食サービス（うちさぼ東京）」についても、約50%が「良かった/やや良かった」と回答。

# 以下のこれまでの東京都のコロナ対策について、あなたの評価を教えてください。

(n=2,000)

(%)



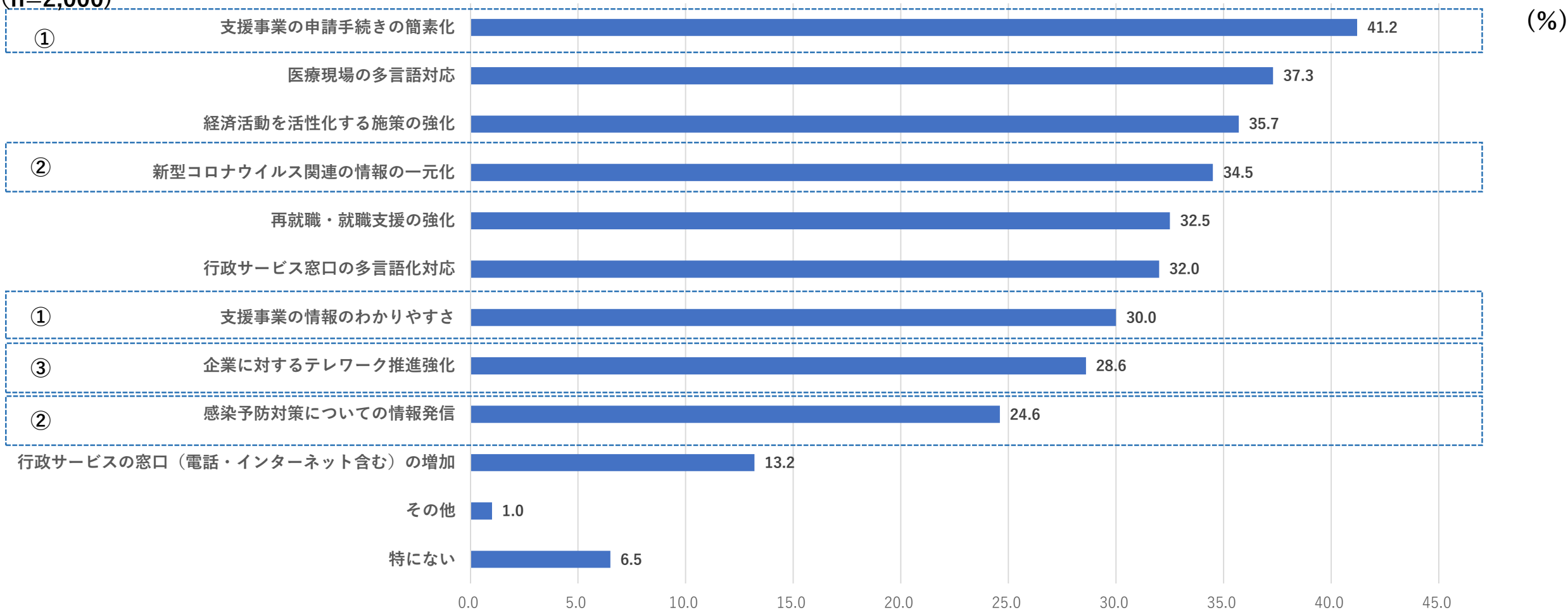
◆ 「東京都の感染症対策全般」について「良かった/やや良かった」の回答割合が約60%となっており、多くの人が評価している。

◆ 個別の項目では、「良かった/やや良かった」の回答割合は、「ワクチン接種」が約60%、「無料PCR検査」が約55%、「無料検査キット配布」が約45%となっている。



# 新型コロナウイルス感染症に関連して、行政に望むことを教えてください。（複数回答）

(n=2,000)



① 新型コロナウイルス感染症に関連して行政に望むこととして、「支援事業の申請手続きの簡素化」の回答割合が約40%、「支援事業の情報のわかりやすさ」の回答割合が約30%。

② 「新型コロナウイルス関連の情報の一元化」の回答割合が約35%、「感染予防策についての情報発信」の回答割合が約25%。

③ 「企業に対するテレワーク推進強化」の回答割合が約30%。

# 新型コロナウイルス感染症等に関する困りごとや都の対策について、ご意見を自由にお書きください。

## 《都の対策への意見・困りごと》

- 外国人にとって東京都が提供する多言語によるコロナの感染情報やガイダンスは、状況をより深く理解し対応する上で非常に重要である。(男性/30代)
- 東京都が外国人に感染症に関する情報を提供する際、言葉の壁や情報不足があると思う。(男性/30代)
- 外国人は故郷に戻れなかったり、家族と再会できなかつたりする可能性があるため、都からのさらなる情報提供や支援を望む。(男性/30代)
- 科学者や医学者のアドバイスに頼って、意思決定や予防策を講じるべき。(男性/30代)
- コロナの話に限ったことではないが、すべての手続きにおいて、紙ベースの作業が多すぎて困る。情報インフラ(署名、印鑑、本人確認など)を改善して欲しい。(男性/20代)
- 集団感染で保育園が急遽休園することになり、急に休みを取得するしかなかった。それを何回か繰り返したところ、同僚から冷遇されるようになり、退社を迫られた。収入は減り、補助金制度を探したが、申し込みが煩雑だった。(女性/40代)
- 外国人に対する差別を解消してほしい。例えば、日本で仕事をしている外国人はちゃんと税金払っていて、日本の発展に貢献している人もいることなどをアピールして欲しい。国籍等に関係なく、みんなが安全安心でいい暮らしができるようにしていこうという概念が浸透する日を期待している。(男性/20代)

## 《評価》

- 積極的に対策を実施しており、首都の機能を保っていて、日本の代表的な国際都市としての役割を果たしていたと思う。(男性/30代)
- 小池知事のフィリピン語などの多言語でのスピーチは、とてもありがたい。私たちのような外国人住民のことも気にかけてくれているんだということが伝わってくる。(女性/30代)
- 外国人は、東京都が感染症対策の重要な対策の一つとしてワクチン接種を積極的に推進していることを高く評価するだろう。(男性/30代)
- 3つの密が良かった。分かりやすく覚えやすいと思う。(男性/30代)
- 無料のワクチンは助かった。(男性/20代)
- テレビやネットでコロナについての情報を毎日入手できることが良かった。(女性/40代)
- 東京都は、新型コロナウイルス流行下での外国人のニーズに応えるメンタルヘルス支援やカウンセリングの提供が不十分である。(男性/30代)

# 新型コロナウイルス感染症が流行したこの3年間の経験を通して、仲間に伝えたいことを自由にお書きください。

- 新型コロナが流行している時期に日本で外国人として生活するのは大変なことで、ストレスもありましたが、心配してくれる人、サポートしてくれる人がいました。だから、日本にいる間には、地域のコミュニティとのつながりがあったほうが良いと思います。(女性/30代)
- 私たちは、家族、友人、仲間に支えられ、思いやりのあるコミュニティを作りながら、困難な時期を一緒に乗り越えてきたと信じています。(男性/30代)
- 物事は良くなっていくものです。なかなか前向きな未来が見えてきませんでしたが、困難を仲間と一緒に乗り越えてきました！(男性/50代)
- このパンデミックから、新たな技術、知識、理解を得て、苦難を乗り越え、支え合っていくことを願っています。(女性/20代)
- 今こそ、つながりとコミュニケーションを通じて、コミュニティを創り出すことが大切だと思います。(男性/30代)
- コロナにより、母国に2年半くらい帰れなかった。その間、友達にも会えず、在宅の仕事だったので、精神的に大変だった。サポートが必要な場合、助けてくれる人を作った方がよい。(女性/30代)
- コロナで困っている仲間が周りにたくさんいるので、お互いに少しずつ気をつけましょう！(男性/30代)
- 感染しても希望を失わず、絶望的な気持ちになったとしても必ず助けを求めること。(男性/30代)
- 私たちは希望を持ち続けなければなりません。(男性/20代)
- 普段より一層、衛生に気をつければ乗り越えられるはずです。過剰な心配は要りません。体の健康だけではなく、心のケアも大事です。(男性/30代)
- 普段からできる衛生管理をしましょう。(女性/30代)
- マスク不要な生活は最高。(女性/20代)
- 個人的には、大きな孤独感と、仕事や学業の計画に対する不安感に直面しましたし、これは同世代の仲間にも共通する経験でした。(女性/20代)
- 新型コロナの流行は社会的不平等を顕在化させた。(男性/20代)
- 日本の医療制度や衛生インフラに対する信頼が増しました。(男性/20代)
- 戦っている医療従事者に感謝する。(女性/20代)
- コロナの流行はまだ続いていますが、この経験を振り返り、教訓を生かしていくことは重要だと思います。(女性/20代)

## <まとめ>

- 在住外国人も新型コロナの流行の中で**感染防止対策**を高い割合で実施。
- 新型コロナの**感染予防対策**について、多くの人々が「**適切だった**」と回答しており、**東京都の感染症対策全般**や**新型コロナ罹患時の支援策**についても、「**良かった**」と回答されている方が多い。
- 一方、医療を受けるにあたっての困難さなど、**在住外国人が日本で生活する上での、新型コロナ特有ではない課題**も示唆される。
- 東京都に暮らす住民として、在住外国人も**一緒にコロナ禍を乗り越えてきた**。このことを踏まえ、今後も感染症対策を含め施策を進める上で、さらなる**共生のための視点**が求められる。